

平成21年度長期社会体験研修修了報告書

研修者名 栗原 勇夫 所属校種 高等学校

研修先企業・部署名 有限会社 武井農園

1 研修内容

(1) 大規模農業経営体研修

- ・有限会社武井農園（養鶏、キウイ栽培、農産物有利販売）【4月1日～ 富岡市】
- ・有限会社ロマンチックデーリーファーム（酪農）【5月18日～22日 昭和村】
- ・加部農園（普通畑経営、タマネギ収穫）【6月8日～10日 富岡市】
- ・有限会社三輪農園（大型機械による水稲栽培）【6月25日～30日 前橋市】
- ・有限会社妙義産業（菌床栽培）【9月14日～25日 富岡市】
- ・有限会社宮城種豚センター（養豚）【2月1日～5日 前橋市】

(2) 農業関連組織研修

- ・カネコ種苗株（養液栽培・ウィルスフリー苗）【4月28日 伊勢崎市】
- ・群馬県農業会議（農地政策・認定農業者支援）【5月8日 前橋市】
- ・富岡普及センター（群馬県の農業行政）【5月26日 富岡市】
- ・日本政策金融公庫前橋支店（農業制度資金の概要）【7月2日 前橋市】
- ・桐生公設市場（農産物の価格形成と物流）【7月6日～17日 桐生市】
- ・群馬県食品安全局食品安全課（食品の安全性について）【12月17日 前橋市】

(3) 研修会・講習会

- ・異業種からの農業参入セミナー【4月23日 前橋市】
- ・事業継承の円滑化セミナー【5月26日 前橋市】
- ・J・GAP 適正農業規範指導員研修【6月11日～12日 東京都】
- ・食の検定・食農3級検定試験【6月28日 東京都】
- ・農の雇用事業従業員研修会【10月2日 11月13日 前橋市】
- ・関東ブロック農業法人交流会【10月15日～16日 栃木県】
- ・現下の農業情勢と今後の農政の行方【10月21日 前橋市】
- ・農業法人全国秋季セミナー【11月19日～20日 岡山県】
- ・群馬県養豚協会セミナー【2月5日 前橋市】

2 研修から学んだこと

(1) 大規模農業経営に従事して

当該研修は、持続的農業経営と担い手確保はいかに行われているかについて年間の研修プログラムを作成しその成果を教育に持ち込むことを主眼にした。

大規模経営の実態は、私の予想をはるかに超えた経営が行われていた。武井農園では農産物の有利販売、養鶏、キウイフルーツの栽培を行う中で、特に販売方法については、JAや市場による農産物の販売経路では、収益性が低いため自己完結型経営を目指し、取引をよりダイレクト化した取引を行っていた。

農家自身が販売経路や手段を考え、企業的に経営を行うことでより収益の上がる農業経営ができることに関心をさせられました。また生産物で出荷できない規格外のものは加工により付加価値をつけて販売を行うこともひとつの手段です。これまでの一般的な「栽培するだけの農業」から「栽培から販売までの一貫した経営」への転換が、現在の農業経営の先端と感じました。群馬県養豚協会の基礎セミナーに出席した際、島根県(有)マルナガファーム管理獣医師の加地氏が講演会で言っていた「元気、やる気、勇気」で「生産から販売まで一貫した農業経営」を行うことで農業経営の安定を図れると思えました。

(2) 農業の担い手を育成するために

各種農業関連組織の研修を行いました。新しい技術や知識も必要ですが、特に我々農業教員に必要なこととして農業政策を知っていなければ担い手の育成には繋がらないと

思いました。「自立する農業経営の実現」「豊かな県民生活を支える農業・農村の振興」これは群馬県農業振興プラン2010の取組内容です。この内容の一端を我々農業教員が担っていることに関心を持たなければならないと思いました。農業行政の動きから農産物の流通そして食品としての安全性等々、様々な観点から農業について護られている部分を知り、各種の政策を利用することで新しい農業人の育成に繋がって行くことを期待したいと思います。それには我々が栽培の知識や技術を教え、更に現在の農業事情を把握し生徒たちに伝えることが必要であると思いました。

(3) 経営者としての資質向上

各種経営セミナーへの参加を通して、経営のポイントや起業のポイントを学ぶことが経営者としての資質向上に繋がると思いました。あるセミナーでは、100名以上の参加者の皆さんの顔を見ていると、必死な姿が伝わってきました。経営者とは常に学ぶ姿勢が大切であることを学びました。

3 所感

(1) 学校教育に生かせること

- ・農業の楽しさを伝え、生徒たちにもっと食育についての魅力を教える
食はすなわち農業であることと同時に、環境を保全する観点まで教えることで農業の楽しさ、食の大切さを育むことができますと思います。
- ・農業の担い手を増やすことを我々農業教員はしなければならないこと
収益性の高い農業という観点から、栽培の基礎から経営の基礎までの一貫した授業形態を作ることで担い手の確保促進に繋がることができると思います。
- ・食料自給率の向上
現在日本の食料自給率はカロリーベースで40%程度です。この数値を上昇できるように生徒たちに「食」と「農」の大切さを伝えること、食料・農業から生きる力を育むことができますと思います。

(2) 職場に還元できること

- ・現下の農業情勢を伝える
各農業政策を知ることによって農業経営に対する指導力を向上できる。
- ・生産と販売、経営までの一貫した授業の展開を各科目から行う
各科目における生産から販売まで一貫した経営の授業を行うことで、就農への関心を高めることができる。
- ・生徒や地域に求められる農業高校の創造
農業を通して生徒や地域に求められる農業人の育成をしている学校にする。
- ・学校づくりに大切な人とのコミュニケーション
コミュニケーションが、学校、生徒を育てることに繋がる。
- ・「元気、やる気、勇気」を持ち、学校経営を行う
学校経営は、企業が目指す経営と同じであると思った。教職員が勇気をもって実行することで学校が育まれる。

(3) 自己評価について

私自身の研修目的でもある、学校経営と農業経営、経営という面から考えると、キーワードは「人」です。人＝人材です。大規模経営体の研修や各種農業組織、各種経営セミナーを通して人との繋がりが一番必要なことと思いました。農業には適地適作という言葉があります。経営でも同じことが言えます。適材適所で新たな発想と発見によりで学校が益々繁栄していくと思います。この一年間の研修で各種農業機関とのつながりができ、その中で様々な人たちと出会い、今後の自信と農業教育への実践的指導力の向上へとつながった気がします。これから学校現場へ戻りましたら、これらの研修を教職員の方や生徒たちに還元できるよう努力をしていきたいと考えています。

(4) おわりに

この研修にご理解をいただき、ご指導、ご協力をいただいた武井農園を中心に群馬県農業法人協会、各農業経営体、農業関連機関の皆様にご心より感謝を申し上げます。